

# 「規範意識育成のための活動プログラム」の作成

## 1 学校における活動プログラム作成の意義

活動プログラムとは、中学校3年間を通して計画的に規範意識の育成をめざし、「道德の時間」「学級活動」「体験的な活動」をユニット化したものです。三つの教育活動が相互に関係し合うことにより、効果的に生徒に人間関係の深まりと道徳的価値を付けさせるものです。

## 2 活動プログラムの内容

活動プログラムにおける三つの内容を以下に示します。それぞれのポイントを十分に考慮し、計画を立てます。

### (1) 道德の時間（発言しやすい雰囲気のある学級にしよう）

他者の「思い」や「価値観」を聞くことは、道徳的価値を深めていくことにつながります。また、学級活動や体験的な活動での人間関係を考える基礎にもなります。このことから道德の時間では、「思い」や「価値観」を発表する「意見交流」を、いかに活発に行えるかが重要になります。そのためには、授業での「約束づくり」「発問の明確さ」「発表の手法」などが大切になります。

### (2) 学級活動（一員である自覚がもてる学級にしよう）

「話し合い活動」を活発に行う学級は、自分たちの手で学級をつくっていく喜びを知っている学級であるといえます。生徒のリーダーを中心として、諸問題を解決したり、約束事を作ったりすることを、教師が意識的に計画したいものです。そのためには、生徒との打合せや準備、議事の進める上での適切なアドバイスなど、丁寧に時間をかけて行う必要があります。学級活動で決められた内容については、道德の時間の中で検証されることで、更に生徒の道徳性を高めることにつながっていくと考えます。

### (3) 体験的な活動（意欲的に活動できる学級にしよう）

道德の時間で学んだことにより、活動への「動機付け」が行われ、体験的な活動に対する「活動の意欲」が高まります。更に、この活動の中で体験をした生徒は、道德の時間の中で、より活発に意見交流を行えると考えます。

## 3 活動プログラムの作成における注意点

活動プログラムは各学年3回実施できるように、各時期における体験的な活動を選び、それを道德の時間と学級活動の内容を考えユニット化しています。ユニット数については、道德や学活の年間授業数よりこのプログラムに振り分ける割合、指導者が集中力を持続して実施できる回数を考慮し、3年間9回に設定しています。

## 4 活動プログラムの実施に当たって

この活動プログラムを実施する際には、「日常の道徳的心情を育てる取組」「自尊感情を高める授業内の工夫」「学校内の状況把握」などを進めておくと更に効果が上がります。このプログラムを用いることで、学年や学校全体での話し合いが活性化し、子どもたちの規範意識の育成への第一歩となると考えます。